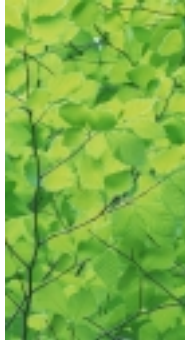


志木市立志木小学校 (埼玉県)



1. 地域特性

志木市は都心から25km、9km²の小さなベッドタウンとして発展しているが、その昔「川越」への物資輸送の拠点として繁栄した町である。

教育は福祉と共に市政の最重要項目に位置づけられ、市民参加型の施設整備が進められている。



改修前の廊下の様子

改修後の廊下、教室

2. 事業の経緯

志木小学校の隣にあった市役所が移転し、その跡地に市民会館が建ち、今回小学校と複合した公民館、図書館が建設された。

校舎改築に当たり、昭和51年建設の南校舎は、築19年しか経過しておらず、耐力度も高かったため残すこととなった。

設計者は市民検討委員会の提言もあり、プロポーザルコンペで選ばれた。

プロポーザルコンペでは、南校舎の既存部分を利用しながら複合化を計画する要件となった。選定された案を基に既存校舎部分は計画・設計されたが、校舎を耐震補強するとともに、教室間の仕切り壁の撤去や間取り変更、トイレ、冷暖房設備や床、壁、天井の仕上げ材の改修等改築部分と遜色ない程全面的にリニューアルされた。



校舎に囲まれたスクールガーデンでは体育の授業も行われる(奥の建物が南校舎)



普通教室のオープン化(廊下側にみえる耐震補強部分)



外観（改修後）



ブレース補強外観



トイレ改修

3. 事業の内容

○既存部分を利用しながら複合化計画する

この事業は、校舎改築に当たり、小学校と市民図書館・公民館を複合させた学社融合施設として計画された。また、既存校舎を改築するに際し、一部校舎（南校舎）を残し、リニューアルしながら、新築校舎と一体的に計画された。

○構造的な工夫

耐震補強を行うに当たり、梁間方向は教室間の壁を耐震壁とし、4階家庭科室の1つの壁を取り去り、鉄骨補強フレームにて補強された。桁行き方向は鉄骨ブレースが西側廊下2スパン3階までの部分に設置された。このため補強ブレースによる開口部の圧迫感を極力抑えたデザインとされた。空調設備設置のため廊下側の天井と給排気ダクト部分にも工夫されたディテール部分が見られる。

○意匠的な工夫

上記の工夫の他、外壁塗装も新築部分との調和を考え色調も合わせ統一感が図られた。

○平面的な工夫

普通教室に利用される2・3階の廊下との間仕切壁を撤去し、学年オープンスペースを設け、改築した校舎の間取りの考え方に近づけた。

教員の提案により、理科室の机を可動式とする工夫がなされた。

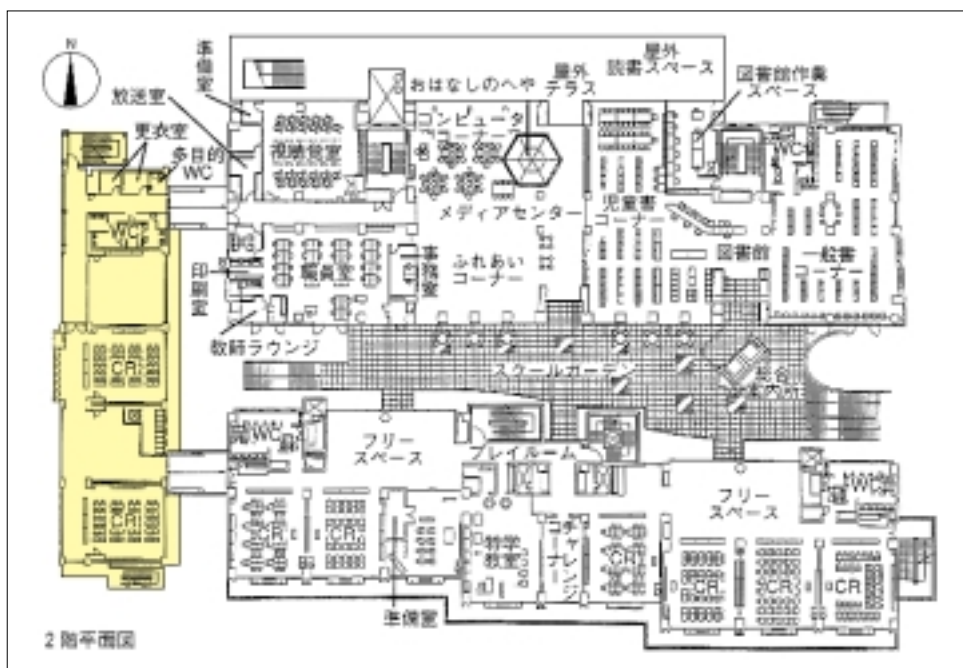
4. 成果と課題

最も注目すべき点は、改築と一部既存校舎部分の改修が同時に実施されていることである。改築部分は学社融合施設として学校と図書館、公民館が複合化され、その一環として既存校舎部分が計画された。

しかし、改築された校舎で実現した学年単位でまとまりのある空間とする試みなど既存校舎で実現できなかったこともあるが、それ以外では、改築された校舎と遜色ないぐらいのリニューアルとなっている。



教室の界壁を撤去した梁柱をH型鉄骨で補強した家庭科教室



2階平面図（改修後）